



鮫川村総合計画 キックオフフォーラム 記録誌

「 鮫川村の魅力と未来を語る 」

～ 暮らす人、働く人、関わる人が見つめる村の未来 ～



令和8年 9 月
福島県鮫川村

目 次

1	フォーラム概要.....	1
2	総合計画策定の概要説明.....	2
3	トークセッション	3
	(1)各発言者要旨	3
	(2)トークセッション発言録	5
4	フォーラムを振り返ってー コーディネーター・トークゲストからのメッセージ ー.....	16
5	来場者アンケート集計・分析結果	18
	(1) 調査・集計の概要	18
	(2) 集計上の取扱い.....	18
	(3) 回答結果の概要.....	19
	(4) 設問別集計結果.....	20
	(5) 年代別クロス集計.....	31
	(6) 自由記述	32
6	トークセッション及び来場者アンケートからみる村づくりの方向性	36

1 フォーラム概要

日時	令和8年9月4日（金） 午後6時30分～
場所	鮫川村公民館
テーマ	「鮫川村の魅力と未来を語る」 — 暮らす人、働く人、関わる人が見つめる村の未来 —
開催趣旨	新たな総合計画の策定に向け、村民とともに鮫川村の未来を考え、計画をつくり上げていく第一歩として開催。
主催者代表	鮫川村長 宗田 雅之
コーディネーター	福島大学 経済経営学類 准教授 藤原 遥 氏
トークゲスト	福島大学 食農学類 客員教授 守友 裕一 氏 さめがわ豆新聞社 代表 高木 千春 氏 小松農園 小松 孝次 氏 株式会社福土舎 代表取締役 森 禎行 氏



鮫川村総合計画キックオフフォーラム トークセッションの様子

2 総合計画策定の概要説明

トークセッションに先立ち、事務局から総合計画策定の概要について説明しました。説明では、次の3点を中心に、総合計画の役割、新たな計画を策定する背景、村民参加による計画づくりの進め方を共有しました。

1

総合計画とは何か：

村の将来像と、その実現に向けた取組を示す「村づくりの羅針盤」であり、予算や事業のよりどころとなる最上位の計画です。

1 総合計画とは何か

鯉川村



2

なぜ今、新しい総合計画をつくるのか：

現行計画が令和9年度で終了することに加え、人口減少・少子高齢化、担い手不足、移動手段、公共施設、防災などの課題や社会の変化を踏まえ、令和10年度からの新たな方向性を示す必要があります。

2 なぜ今、新しい総合計画をつくるのか

鯉川村



3

どのように計画をつくるのか：

住民アンケート、団体ヒアリング、住民ワークショップ「さめがわ未来会議」等を通じ、多様な声を集め、整理・分析し、策定委員会での議論を重ねながら計画に反映していきます。

3 どのように計画をつくり、村民の皆さんの声を反映していくのか

鯉川村



3 トークセッション

福島大学の藤原准教授にコーディネーターを務めていただき、主催者を代表して鮫川村長及び4名のトークゲストが、「鮫川村の魅力と未来を語る」をテーマにトークセッションを行いました。

(1)各発言者要旨

登壇者それぞれの発言から、鮫川村の魅力、課題、10年後の村の姿、これからの村づくりに向けた主な視点を整理しました。



コーディネーター／福島大学 経済経営学類 准教授 藤原 遥 氏

- 総合計画づくりでは、住民が主役となり、地域の魅力や資源を再評価しながら未来を考えることが大切。
- 登壇者の「自然・景観・農業・人」といった多様な視点をつなぎ、鮫川村の可能性を共有。
- 若い人の夢や住民の小さな声を行政が感度よく拾い、政策につなげることの重要性を指摘。
- フォーラムを出発点に、「さめがわ未来会議」などへの参加を通じて一緒に村づくりを進めることを呼びかけ。



主催者代表／鮫川村長 宗田 雅之

- 豊かな大自然、昔懐かしい風景、農産物や食を鮫川村の大きな魅力として提示。
- 有機農業を進め、安全・安心でおいしい食を子どもたちに届け、教育や健康づくりにもつなげたい。
- 農業・教育・景観・観光をつなぎ、景観を磨き上げることが村づくりの要。
- 10年後、子どもたちが「ここで育ってよかった」と思える、住んでいて楽しい村を目指し、農産物のブランド化や担い手確保を進めたい。



トークゲスト／福島大学 食農学類 客員教授 守友 裕一 氏

- 長年の関わりから、鮫川村の魅力は「人」であり、学び、議論し、外から来た人を受け入れる文化があると評価。
- 外部の視点を鏡にして地域の価値に気づく「交流の鏡効果」を紹介。
- 学生と地域住民が互いに学び合う関係や、地域に蓄積された技術・技能を次世代につなぐことが重要。
- 未来から逆算する「バックキャスト」と現在の資源を積み上げる「フォアキャスト」の双方を活用し、「縮充社会」「にぎやかな過疎」「共生型社会」を視野に。



トークゲスト／さめがわ豆新聞社 代表 高木 千春 氏

- 鮫川村の魅力は「人」と「自然」。村のために何かをしたいという住民が多く、その力を未来につなげたい。
- 行政任せではなく、住民ができることを担い、行政と住民が対等に連携する関係が理想。
- 自然の魅力は、展望台などの仕掛けや遊び心を加え、見てもらう・来てもらう工夫が必要。
- 人口減少下では「稼ぐ村」を意識し、観光資源やふるさと納税等を活用するとともに、子どもの遊び場など「今の暮らし」も良くしたい。



トークゲスト／小松農園 小松 孝次 氏

- 村内には、村民一人ひとりが「ここがおすすめ」と言えるような美しい景観が数多くある。
- 耕作放棄地を単なる課題ではなく、「農業を始められる土地がある」という新規就農の可能性として捉えたい。
- 空いている農地の情報を見える化し、本格就農だけでなく家庭菜園なども含め、農地に関わる人を増やしたい。
- 子どもたちが「鮫川村で農業をやれば稼げる」と思える環境をつくり、新規就農者の受入れや販売・ノウハウの共有につなげたい。



トークゲスト／株式会社福土舎 代表取締役 森 禎行 氏

- 人口減少の時代だからこそ、「村であること」そのものがブランドになり得る。
- 「源流」をテーマに下流の都市と交流し、自然と一緒に守るなど、村外の人とのつながりを生かす可能性を提示。
- 草刈りなど村では日常の作業も、都市部の人にとっては体験・交流の価値になり得る。
- 10年後は「ザ・村」を目指し、風景、人と人とのつながり、仕事を大切にし、地域産品を生かした「その店に行くために村を訪れる」ような食の発信も提案。

(2)トークセッション発言録

以下は、当日のトークセッション及び会場との意見交換を時系列で整理した発言録です。

藤原氏:

皆様こんばんは。コーディネーターを務めます、福島大学の藤原です。よろしくお願いします。先ほど事務局からご説明がありましたように、今回、私のゼミ生と一緒に、鮫川村の総合計画づくりのお手伝いをさせていただくことになりました。

鮫川村とは実は縁がありまして、私のゼミの卒業生が2人、鮫川村出身です。2人は鮫川村が本当に大好きで、地元に貢献したいという気持ちから、卒業論文も鮫川村について書きました。2人から鮫川村の魅力を教えてもらうちに、私自身も鮫川村に大変興味を持つようになりました。

そのような中で、今回鮫川村からお声がけいただいて、総合計画づくりに関わる機会をいただき、大変うれしく思い、またワクワクしております。

私は財政学と環境経済学を専門にしております。福島大学に着任してから、いくつかの市町村で地域づくりのお手伝いをするなど、関わりを持ってきました。地域づくりを考えるうえで、私が最も大切にしていることは、**住民が主役になること**です。これは先ほど村長がおっしゃったこととも共通しています。

今回の総合計画づくりを通じて、鮫川村が持っている魅力や地域資源を再評価しながら、住民の皆さんと一緒に、これからの鮫川村のより良い未来を考えていく。そういったお手伝いができればと思っています。

本日は登壇者の皆さんのお話を伺いながら、それぞれの立場や視点をつなぎ合わせ、鮫川村にはどのような魅力があり、これからどのような可能性があるのか、会場の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。それではまず、登壇者の皆さんが感じている鮫川村の魅力や、この村が持つ可

能性についてお話を伺いたいと思います。自己紹介を交えながら、お一人5分程度でお願いしたいと思います。それでは、宗田村長からお願いします。

宗田村長:

私は鮫川村が大好きで、生まれて79年になります。大好きで大好きで、大好きな村だからここに住んでいます。まず村の魅力。これは誰もが入ってきて思うことだと思いますが、豊かな大自然、山々、そして昔懐かしい**風景**です。

そして、大自然から恵み出る農産物、食を楽しめる素晴らしい村であります。この自然、景観とコラボした農業や教育、景観づくり。これによって関係人口や人口の維持などにもつながると思っています。まず農業部門でございます。

農業は以前から先人の皆様が取り組んできました。そして村では有機農業の推進を進めています。安全・安心で、おいしい食べ物を子どもたちに与える。

また教育部門に対しても、農業を通じて安全・安心な食を子どもに提供することによって、心身の健康づくりにもつながると思っています。また景観についても、本当に魅力ある景観がたくさんあります。

これをいかに磨き上げるか。これが村づくりの要だと思っています。そういう村づくりを私は進めたいと思っています。

藤原氏:

はい、ありがとうございます。では続きまして、守友先生、お願いします。

守友氏:

福島大学でお手伝いをしております守友です。私が鮫川村に来ましたのは、はるか昔、1980

年代の終わりです。35 年ぐらい前ですから、若い方はまだ生まれていないころだと思います。

なぜ来たのかというと、農林水産省が、各地にある畜産基地について、経営が厳しくなってくる中で今後どう活用していくかというテーマを持っていました。福島県では二つ候補がありまして、一つが飯舘村、もう一つが鮫川村でした。そこで何人かでお邪魔したというのが最初です。ちょうどそのころ、福島県では各地域を見直そうということで「ふるさと産業おこし運動」をやっていました。

いわゆる「一村一品運動」のように、各町村にあるものを見だし、それに付加価値をつけて経済的にレベルアップを図ろうという取組です。そういう中で、鮫川村では村民の方と行政の方が一緒になって「村づくりおもしろ講座」というものを始めたんですね。そのころにお邪魔して、私の第一印象は、「**なんと、この村の人は勉強するんだ**」ということでした。

それ以上に、村づくりについてあれこれ議論している皆さんの目が、キラキラしていたのを非常によく覚えております。

もう一つ感じたのは、外から来た人を受け入れる雰囲気があるということです。地域経済学の言葉でいうと、「交流の鏡効果」と言います。外の人ややってきて、「ここは面白いね」「これはすごいね」と思う。ところが、村の人自身はそれに気づいていない。つまり、外の人という鏡を通して、自分たちがやっていることの価値を見つけるということです。鮫川村には、そういう外から来た人を受け入れる開かれた雰囲気があると感じました。

その後、平成の大合併があり、最終的に鮫川村は単独で頑張ると決めたわけですね。そこでも役場職員や村民の方が大変よく勉強していたという強い印象を受けました。鮫川村は何かにつけてよく勉強し、ディスカッションをする村だと思っています。私は外から見ると、やっぱり鮫川村の魅力は「人」だと思います。

学生を鮫川村に連れてきたことがあります。学生は分からないことがあるから何でも聞くんですね。農家に行くと、普通のスーパーでは売っていないような野菜もある。学生が「おばあちゃん、これ何？」と聞く。すると地域のおじいちゃん、おばあちゃんが、「あんたがた、大学まで行っていて、そんなことも知らないの」と言いながらもいろいろ教えてくれる。学生はそこで勉強になる。同時に、教える側のおじいちゃん、おばあちゃんも、自分の技能や技術に自信を持つんですね。学生が質問し、地域の方が答える。地域の方がさらに勉強し、また学生に教える。こういう**相互に勉強できる関係**が非常によく見えたのが、この村でした。

景観や農村**風景**を見るのと同時に、**その背景にいる人間のことを見る必要がある**。それが私が鮫川村で感じていることです。

藤原氏：

はい、ありがとうございます。続きまして、高木さんお願いします。

高木氏：

皆さんこんばんは。よろしくお願いします。改めまして、さめがわ豆新聞社で新聞を発行しています。プライベートでは地域貢献団体「さめレンジャー」を立ち上げまして、活動しております。現在、複数のグループができまして、総勢 50 人ほどで活動しています。

私が村の魅力だと感じていることは本当にたくさんあるんですけども、大きくは村長と変わらず、「人」と「自然」だと思っています。

人に関しては、表面には出てこないんですけども、「村を思って、村のために何かをしたい」という人が、本当にたくさんいると感じています。

さめレンジャーを立ち上げたとき、メンバーが口をそろえて言ったのが、「**前から村のために何かしたかったんだ**」ということでした。そう思っている一人では難しいし、二の足を踏んでしまう。でも、みんなで一緒だったら心強いし、参加したいという

人が結構多い。さめレンジャーに限らず、そういう思いを持った団体はほかにもいっぱいあります。そうした人たちの動きが、10年後、20年後の村につながっていくのではないかと考えています。

村づくりは行政に任せればいいというわけではなく、自分たちでできることは自分たちでやらなければいけないと思っています。行政に頼りたいところは頼りますけれども、自分たちでできるところは自分たちでやる。行政と住民が天秤にかけたときに、平行になるような関係があったらいいと思っています。

自然に関しては、やはり鮫川村といえば豊かな自然環境が魅力だと思います。ただ、自然が豊かな場所は正直どこにでもあるんですよね。「きれいな自然を見に来てください」だけでは集客は見込めない。そこで大事なのが、**来てもらうための仕掛けづくり**だと思っています。

例えば、館山公園は先輩方が長い時間をかけて花見山のような場所をつくろうと活動してきました。そうした先輩方がつくり上げてきた村の自然を、どうしたら見てもらえるか。

例えば展望台を設置する。中学校に関係する方なら分かると思うんですが、春と秋にすごくきれに見える場所があります。そこに展望台をついたら本当に絶景だと思います。さらに例えば鐘をつけて、「恋人の聖地」のようにして、「鐘を鳴らすとうまくいくよ」みたいな仕掛けをつくる。そういうちょっとした遊び心も含めた仕掛けが必要なのかなと思います。

子育てと一緒にだと思えますけれども、**手間をかければかけるほど、村づくりも良くなる**。村、行政と一緒にあって、いろいろ考えていけたらと思います。

藤原氏：

はい、ありがとうございました。では続きまして、小松さんお願いします。

小松氏：

こんばんは。正直、こういうところはあまり慣れていないので、うまく伝えられるか、うまく話せるかというのはちょっと自信がないんですけども、精一杯頑張りますので、よろしくお願いします。

まず自己紹介なんですけれども、私は小松農園でイチゴを作っています。年齢は昭和59年生まれで、42歳になります。高校を卒業した後、一度県外の民間企業に就職して、ずっと働いていました。その頃は、全く農業をやるつもりはありませんでした。理由としては、やっぱり父母が農業をしている姿を見ていて、大変そうだなというか、「自分はちょっとないな」という気持ちがあったので、農業ではなく会社に勤めるという道を選びました。しかし、令和3年に会社を退職し、令和4年に新規就農という形で農業をスタートしました。現在は、主に先ほど申し上げたイチゴ、「ゆうやけベリー」という品種を中心に農業をしています。現在の主な活動としては、「さめがわプライド」という若手農業者4人のグループでも活動していて、鮫川村や農業の魅力を発信できるような取組をしています。

ここから本題になりますが、先ほどから皆さんがお話されているように、鮫川村には美しい山や自然があり、人とのつながりもあります。そういった魅力はすでにいろいろ出ていますので、自分からは、まず個人的にすごく好きな景色を一つ紹介したいと思います。

江竜田の滝の入口に向かう辺りなんですけれども、大橋の方から、ちょっと雨上がりなどに見ると、雲海みたいに、雲の上にいるような感じに見えるところがあります。そこがすごくきれいなんです。鮫川村には、そういう景観がそこだけではなくて、たくさんあります。たぶん村民一人ひとりに聞いても、「自分はここがおすすめだ」という場所を一つは持っているんじゃないかと思います。それくらい素晴らしい景観がある村だと思っています。

もう一つ、鮫川村の魅力ということで、今度は農業者の視点からお話したいと思います。鮫川村には耕作放棄地がたくさんあります。普通に考えると、耕作放棄地が多いというのは課題だと思うんですけども、正直、自分は**それも一つの魅力になり得るんじゃないか**と思っています。

なぜかという、農業を始めたいと思っても、そもそも農業をやる場所がない地域もあります。何も無いところから農業を始めて、「ゼロを一にする」というのは、たぶんすごく大変だと思います。でも鮫川村には、「**農業をやる場所がありますよ**」と言える。それだけでも、農業を始めたい人にとっては大きな魅力になるのではないかと、自分の中では感じています。ですから、耕作放棄地があるということも、見方を変えれば、村外の人たちに対して、「**鮫川村では、まだ農業を始められますよ**」と言える材料になるのではないかと思います。農業者の視点から見ると、一般的には課題と思われる耕作放棄地についても、これから新しく農業を始める人を受け入れるための可能性、あるいは鮫川村の一つの魅力として捉えることができるのではないかと思います。

藤原氏：

はい、ありがとうございます。続きまして森さん、お願いします。

森氏：

東京出身で、今も東京に住んでいますが、福島が好きで毎週のように通っています。もともと新聞記者をしていて、東日本大震災の取材をきっかけに福島との関わりが始まりました。浜通りの生産者などと出会って、畑で食べたトウモロコシなど、福島の食のおいしさに感動しました。それから10年以上、福島に関わっています。外から鮫川村を見ていて、一つ大きな魅力だと思うのが、

「村であること」そのものです。

全国で「村」という自治体は非常に少なくなっています。人口減少の時代だからこそ、「村」であ

ること自体がブランドになり得るのではないかと思います。もう一つは「源流」です。鮫川村は複数の水系の源流を持っている。川は下流の都市につながっています。下流の人たちの暮らしも、上流の水や自然に支えられているわけです。ですから「源流」をテーマにして、下流の都市と交流する。あるいは自然と一緒に守っていく。そうした可能性があるのでないかと思っています。

藤原氏：

ありがとうございます。皆さんから「自然」「景観」「農業」、そして「人」という話が出てきました。鮫川村に住んでいる方にとっては当たり前になっているものでも、外から見ると非常に価値のあるものがあるということだと思います。私自身も鮫川村に来て、農業景観、農村**風景**の美しさに大変驚きました。私も家庭菜園程度ですけども少しやっていますので、草を刈ること一つとっても、本当に大変だと思っています。それを地域の皆さんが日常的にやられている。**その努力が美しい景観をつくっている。**

地域の人々の努力が、景観として表れているんだと思います。これも一つの村の魅力だと思います。続きまして、高木さんと小松さんに伺いたいと思います。高木さんからは「行政に頼ってばかりではいけない。住民側も自分たちでやるべきことがある」という話がありました。

一方で、行政と住民が一緒に取り組むことによって、新しいことにチャレンジできたり、今、高木さんや小松さんが取り組まれていることを後押ししたりすることにもつながると思います。

これから鮫川村の村づくりを考えていく中で、「行政とこういうふうと一緒にやったら、こんなことができるんじゃないか」ということがあれば、お二人からご意見をいただければと思います。急に振ってしまっただけですが、よろしくお願いします。

高木氏：

頭の中がめっちゃめっちゃ回転しているんですけども……。行政と一緒にできることということで言えば、例えば今、村が取り組んでいる館山公園の草刈りボランティアにも 50 人以上の村民が協力しています。また、植樹のときにも 50 人以上の方がボランティアで参加していました。時間って有限で、本当にその人の財産だと思うんです。その自分の時間を使ってでも来てくれる人が、本当にいっぱいいるんだということを、取材しながら感じました。

ですから、例えば村が取り組みたいことがあったときに、ボランティアを募って一緒にやるというのも一つの方法ではないかと思います。もちろんさめレンジャーとしても協力したいと思っています。

藤原氏：

はい、ありがとうございます。本当にこれは大変素晴らしいことだと思います。私もほかの地域で住民参加の地域づくりをやりようとしたときに、まず**住民が来ない**という場合もあるわけです。その点、鯨川村は、すでに住民の皆さんの意識が非常に高い。住民参加という意味では、第一条件をすでに満たしているとも言えると思います。住民参加と言った場合、住民と一緒に協力してやらなければ成立しないわけですけども、それが鯨川村ではできる。

そういう意味でも、大変素晴らしい村ですし、可能性がたくさんあるのだと改めて思いました。ぜひ皆さん、今回の総合計画の策定だけでなく、この村づくりについて積極的にご意見をいただきたいと思います。役場の職員の皆さんも、これまで私に関わってきた中で、非常に真剣に考え、一緒に取り組んでくれる方々です。もちろん村長をはじめ、ぜひ皆さん一緒になって村づくりができるいいと思います。ありがとうございます。続きまして、小松さん、いかがでしょうか。

小松氏：

「行政と一緒に」ということに本当に当てはまるか分からないんですけども、先ほど「農業ができる土地があることが魅力」という話をしました。今、役場に行くと、空いている農地などを色分けした地図のようなものがあります。そういうものを、もっと村民が気軽に見られるようになればいいと思います。

例えば自宅の近くに空いている農地があることが分かれば、「ここで家庭菜園をやってみよう」と思う人もいるかもしれません。農業者が高齢化して、農地を維持する人が少なくなっています。農業を本格的に始める人だけでなく、家庭菜園でもいいので、農地に関わる人を増やしていく。そのために役場から情報を積極的に発信してもらえるといいと思います。

藤原氏：

ありがとうございます。森さんからは先ほど、源流を通じて外の人とつながるという話もありました。村の中では「大変な作業」と捉えているものも、外から来る人にとっては体験や交流の機会になる可能性があるということですね。

森氏：

そうですね。例えば草刈りです。農家にとっては日常の大変な作業ですけど、都市部の人には「草刈りをやってみたい」という人もいます。農村側では人手が足りない。でも都市部には農村で何かやってみたいという人がいる。そこをマッチングすることもできると思います。東京だけではなく、郡山や福島市など近隣の都市でもいいと思います。鯨川村には「源流」という分かりやすいテーマがありますから、「自分たちが使っている水の源流を守りに行こう」という形で、下流の人たちに来てもらうこともできる。

農地や景観を村の人だけで守るのではなく、外の人との交流を通じて守っていくという方法もあると思います。

藤原氏：

ありがとうございます。鮫川村の皆さんにとっては「普通」「当たり前」と思っていることが、都市部の人にとっては魅力的で、「やってみたい」と思うことになる。**日常の当たり前の作業にも価値を見だし、それを交流につなげていく。**これは非常に重要な視点だと思います。

藤原氏：

それでは、ここから少し視点を未来に移したいと思います。次のテーマは、「10年後の鮫川村と、その実現に向けて」です。10年後、鮫川村がどのような村になってほしいか。そして、その未来を実現するために、今からどのようなことに取り組む必要があるのか。また、ご自身の立場からどのようなことができるのか。一人3分程度でお話したいだと思います。それでは、村長からお願いいたします。

宗田村長：

10年後、子どもたちが、
「ここで育ってよかった」

と思える村にしたいと思っています。農業については、今、「儲からない」と言われています。それが後継者不足にもつながっています。有機農業などを進め、付加価値をつけて、**儲かる農業**にしていくなことが必要だと思っています。農業で収益を上げることができれば、若者も農業に入ってくる。後継者ができれば耕作放棄地も減る。それが景観の維持にもつながります。畜産についても、若い担い手を増やしたい。そして、鮫川村の農産物を全国に通用するブランドにしていきたいと思っています。

教育では、安全・安心な食を子どもたちに提供して、心身ともに健康な子どもを育てたい。義務教育学校も整備し、安全な教育環境をつつていく。農業、教育、景観、観光などをつなぎ合わせて、「住んでいて楽しい村」にしていきたいと思っています。

藤原氏：

ありがとうございます。続いて守友先生、お願いします。

守友氏：

10年後を考えると、二つの考え方があります。一つは**フォアキャスト**です。今あるもの、今持っている資源や技術をもとに、コツコツ積み上げて未来を考える。鮫川村で言えば「まめで達者なむらづくり」のような取組が一つの例です。高齢者の方々は、大豆を大切にしてきた。作り方も知っている。地域に技術や技能が蓄積されている。そういうものを大事にして積み上げていく。もう一つは**バックキャスト**です。まず「こういう未来にしたい」という到達目標をつくる。

そして、そこから逆算して「そのためには今、何をしなければならぬか」を考える。若い人には未来を語ってもらう。未来の目標をつくって、そのために何をするかという発想で頑張ってもらう。一方、高齢者の方々には、すでに持っている技術や技能を生かしてもらう。どちらが良い、悪いではなく、両方が必要です。**若い人には未来を語ってもらい、年配の人には蓄積された技能を生かしてコツコツ積み上げてもらう。**

この二つのやり方を、これから未来会議などでもぜひ議論していただければと思います。

藤原氏：

はい、ありがとうございます。続きまして高木さん、お願いします。

高木氏：

人口が減少していくことが見込まれている中で、確実に税収も減っていくのではないかと考えています。そんな中では、やはり「稼ぐ村」にしなければならないと感じています。先ほど話した先行投資や仕掛けづくりも、お金がなければできないことが多い。例えば鹿角平観光牧場は、本当にポテンシャルがあると思っています。「ミニ北海道」と言われるぐらいの景観があります。今から少しずつ手を

入っていけば、10 年後、20 年後につながっていくと思います。もう一つは、ふるさと納税の活性化です。

茨城県境町など、ふるさと納税を大きく伸ばしている自治体があります。鮫川村でも、1 億円という規模は不可能ではないのではないかと思います。例えば鮫川村の花火大会。東京の知り合いからも「鮫川の花火はすごい」と言われました。一発ずつ奉納するような形で上げている花火大会は珍しい。それなら、

「ふるさと納税をして、自分の花火を上げられる」

というような返礼があっても面白いと思います。村の人には当たり前でも、外の人から見たら価値があるものがある。一方で、10 年後のためだけではなく、**今が楽しいことも大事**だと思っています。子育て世帯からは、子どもが遊べる公園や室内の遊び場がほしいという声があります。高齢者向けの活動場所などと比べると、子どもや子育て世代向けの場所は少ない。10 年後を考えると同時に、今の暮らしも良くしていきたいと思います。

藤原氏：

ありがとうございます。続いて小松さん、お願いします。

小松氏：

自分には 5 歳と 2 歳の子どもがいます。10 年後には中学生、高校生ぐらいになっています。そのときに、子どもたちの職業の選択肢の中に、**農業が入っていてほしい**と思っています。自分自身、高校を卒業したときには、農業を職業として全く考えていませんでした。でも 36 歳になって農業を始めると、会社員より自分に合っていると感じました。「20 歳のころからやっていたらよかった」と思うぐらいです。子どもたちが、

「鮫川村で農業をやれば稼げる」

「**農業を仕事にできる**」と思える環境をつくりたい。そうなれば村外からも農業をやりたい人が来

ると思います。鮫川村には土地がある。住む場所もある。教えてくれる先輩農家もいる。販売する場所やノウハウなども共有して、新規就農者を受け入れることができればいいと思います。それがふるさと納税の返礼品や、オーガニックビレッジにもつながっていく。10 年後、農業者が今より減っていない。できれば増えている。そういう村になってほしいと思います。

藤原氏：

ありがとうございます。では森さん、お願いします。

森氏：

私は 10 年後、鮫川村が、

「ザ・村」

になっていたらいいと思います。「村」であることにこだわって、村でナンバーワンを目指してもいい。ヨーロッパで「村」というと、きれいな**風景**や豊かな暮らしをイメージします。日本では「村」というと古い田舎のようなイメージになりがちですが、同じ村です。村の魅力を考えたとき、大切なのは三つあると思います。一つは**風景**。二つ目は**人と人とのつながり、関係性**。三つ目は**仕事**です。**仕事**も大企業である必要はありません。私自身も一人で会社をやっています。農業も一人や家族で経営できる。

それぞれが小さな**仕事**を持ち、お互いに協力するということは、むしろ村の強みになると思います。

「鮫川村に行って、一人で仕事を始めてみよう」

と思えるような村になるといい。未来は行政から与えられるものではなく、一人一人がつくる未来の総体が、村の未来になると思っています。

藤原氏：

ありがとうございます。守友先生、先ほどの未来の話に関連して、もう少し補足いただけますでしょうか。

守友氏:

人口減少時代の地域を考えると、いくつか頭に置いておいた方がいい言葉があります。一つ目が「縮充社会」です。人口は縮小しても、暮らしの中身を充実させる。人口を増やすことだけではなく、外から来る人も含め、いろいろな人が地域に参加する。縮小しながらも充実した社会をつくるという考え方です。二つ目が「にぎやかな過疎」。人口自体は少なくとも、住民、移住者、関係人口など、いろいろな人が出入りし、様々な活動や**仕事**がある。

人口が少なくても、にぎやかな地域はつくれるという考え方です。もう一つが「共生型社会」です。高齢者や認知症の人なども支えながら、地域と一緒に暮らしていける社会。そういう社会は、元気な人にとっても優しい社会だと思います。この三つは、10年後を考えるうえで頭の中に入れておくべきことだと思っています。それから、先ほど**フォアキャスト、バックキャスト**という話をしました。

そこで出てくる一つ一つのアイデアを、**行政が感度よく拾い上げる必要がある**と思います。若い人たちが夢を語る。「こういう村にしたい」と言ったとき、「じゃあ、そのために何ができるんだろう」といろいろ考える。そこを行政が感度よくピックアップして、政策化していく必要があると思います。鮫川村の職員の方は、昔からよく勉強するという印象を持っています。ぜひ住民の小さな声や夢を拾っていただきたいと思います。

藤原氏:

少し時間も押してきましたので、ここからは会場の皆さんにも参加していただいて、フロアとディスカッションしながら、登壇者の方々にもお話を伺う形にしたいと思います。せっかくの機会ですので、ぜひ会場の皆様からご意見、ご質問をいただきたいと思っています。これまでいろいろな意見が出ましたし、キーワードもたくさん出ました。ご自身の関心とは少し違う話題でも構いません。何でも結構ですので、積極的にご意見をいただきたいと思っています。

係の方がマイクをお持ちしますので、挙手をしてご発言ください。

差し支えなければ、お名前とお住まいの地区も教えていただければと思います。いかがでしょうか。……なかなかいらっしゃらないようなので、もしよろしければこちらからご指名というか、伺いたいと思います。せっかく最前列で聞いていただいているママレンジャーのお二人がいらっしゃいますので、いかがでしょうか。お二人ともご発言いただければと思います。トップバッターということで大変恐縮ですが、よろしくお願いします。

会場参加者①:

山口県出身で、今4歳と6歳の子どもがいて、ちょうど子育て世代です。鮫川村に来て感じていることがいくつかあります。一つは、村民の方がボランティアティーチャーのような形で子どもたちの教育に関わっていることです。

これから新しい義務教育学校もできますが、地域の方が持っている知識や技術を子どもたちに伝えていくことは、とても大事だと思います。ただ、今活動している方々も高齢になってきています。次の世代を育てる仕組みも必要だと思います。例えば活動するときに、次の担い手になる人も一緒に参加して、先輩から学ぶ。自分もそういう機会があれば手を挙げたいと思います。

草刈りについても、若い女性や若い世代で草刈り隊のようなものをつくって、景観を守りながら収入にもなるような仕組みがあってもいいと思います。また、鮫川村に来て、学童を利用できない子どもがいることに驚きました。

もし支援員が足りないのであれば、子育て世代の人が研修や資格を取ることを村が支援して、学童の支援員として働けるようにする。そうすれば、人手不足の解消にもなるし、子育て世代の収入にもなります。農産物についても、大学と連携して、鮫川村の野菜の成分やおいしさを科学的に分析して、

「鮫川村の野菜はここが違う」

ということをデータで示せれば、ブランド化にもつながると思います。それから、やはり子どもが遊べる場所もほしいと思っています。

藤原氏：

ありがとうございます。今のお話を伺っていて非常に重要だと思ったのは、地域の課題について「こうしてほしい」というだけではなく、「**自分もそこに関わりたい」「自分も担い手になりたい**」というお話が出ていることです。先ほども申し上げましたが、住民参加を呼びかけても、なかなか人が集まらない地域もあります。その中で鮫川村には、地域のために何かしたい、自分も参加したいという方がいる。これは本当に大きな地域の力だと思います。

会場参加者②：

私は15年ぐらい前に、栃木県的那須塩原市から鮫川村に嫁いできました。最初に来たときは、少し暗い印象もありました。でも、子育てをして地域の中に入ってみると、活気のある人が本当にたくさんいることが分かりました。

図書館などへ行っても声をかけてもらえるし、ワークショップやママレンジャー、ちびレンジャーなど、いろいろな活動があります。私は、

「村に子育てをしてもらっている」

という感覚があります。「村全体で子どもを育てる」という鮫川村の良さを、もっと伸ばしてほしいと思います。例えば空き家などを使って、子どもが100円を持って行けば、地域のおじいちゃん、おばあちゃんにご飯を食べさせてくれたり、遊んでくれたりする。そういう場所があっても面白いと思います。

学童も、祖父母がいるから利用できないということではなくて、必要な人が誰でも利用できるようなればいいと思います。

会場参加者③：

地域おこし協力隊です。地域おこし協力隊というと、「3年たったら帰るんじゃないか」と思われるかもしれませんが、でも、自分としては、拒絶されない限り残りの人生を鮫川村で過ごしたいと思っています。遊休農地があって、空き家があって、有機農業を推進している。

「ここなら農業をやれる」

と思って鮫川村に来ました。外から見ても鮫川村には十分魅力がありますし、もっと移住者が増えてもいいと思っています。自分は農業未経験ですが、村の支援を受けながら自立できれば、それ自体が一つのモデルになると思います。「鮫川村なら農業を始められる」と、次の人に伝えられる。自分自身がそういうモデルになって発信していきたいと思っています。村でやっている有機農業の技術研修も非常に役に立っています。

草刈りでもいいし、子どもと遊んだり、勉強を手伝ったり、キャッチボールの相手をしたり、自分にできることはあります。担い手が必要なら、どんどん自分を使っただいて構いません。

藤原氏：

ありがとうございます。本当にこの村は、守友先生がおっしゃった「交流の鏡効果」という意味でも、外から来た人に対して開かれた雰囲気があるのだと改めて思いました。そして皆さん、本当に協力的だと感じます。こういった力を、ぜひこれからの村づくりに生かしていければと思います。

会場参加者④：

鮫川村の魅力として、自然や人という話がありました。確かに外から見れば、自然があって、空気が良くて、水が良くて、非常にいいところだと思います。ただ、我々村の中で生活している人間にとっては、緑があっても、それがお金にならない。農林業の生産性もなかなか上がらないという現実があります。大事なのは、**ないものを探すのではなく、あるものをどう生かすか、磨くか**ということ

はないかと思います。その中で、山林についても考えていただきたい。

今、木材価格が上がって木が伐られるようになってきていますが、その後、再造林されない山もあります。今伐っている木は、何十年も前に先人が植えてくれた木です。今植えなければ、30 年後、50 年後に使える森林資源がなくなります。農地と同じように、

「鮫川村には山があります。林業をやりたい人が使えます」

という考え方もできるのではないのでしょうか。再造林を個人だけでやるのは難しい。国や県の制度も使いながら、村として何らかの形で支援する必要があると思います。総合計画ですので、森林や林業、再造林についてもぜひ計画に入れていただきたいと思います。

藤原氏：

貴重なご意見ありがとうございます。もちろん山林についても、農業と同様に地域の産業、景観、環境に関係する重要な資源ですので、今後の山のあり方、森林のあり方についても、総合計画を考える中で検討していく必要があると思います。

藤原氏：

いただいたご意見に対して十分なリプライができていない部分もあるのですが、せっかくですので、最後にお三方から一言ずついただきたいと思います。まだ最後のご発言をいただいていない高木さん、小松さん、森さんの順で、一人 1 分程度でお願いします。

最後のまとめでも結構ですし、今までいただいたご意見についてでも、あるいは 10 年後の鮫川村について、ほかの方の意見を踏まえてご発言いただいても構いません。では、高木さんからお願いします。

高木氏：

今日いろいろな話を聞いていて、やっぱり結局一番大事なのは「人」だと思いました。鮫川村に

は、昔から村のために活動してきた団体や先輩たちがいます。商工会青年部が続けている花火大会もそうです。

周辺で花火大会がなくなっていく中で、これだけ小さな村で規模のある花火大会を続けているのは、本当にすごいことだと思います。最近では若い農業者のグループや、環境、空き家など、いろいろな分野で新しい活動も生まれています。大切なのは、そういう活動の**炎を絶やさないこと**だと思います。それが 10 年後、20 年後につながっていく。村にも、そういう人たちを応援してもらえたらと思います。

藤原氏：

ありがとうございます。小松さん、お願いします。

小松氏：

今日の話の中で、「ないものを探すんじゃなくて、あるものを探す」という話がすごく印象に残りました。山の話聞いていても、「じゃあ果樹を植えたらどうなんだろう」とか、いろいろ考えるとワクワクします。自分としては、やはり農業の立場から村づくりに関わってきたいです。**農業にはいろいろな可能性**があると思っています。これからの鮫川村が楽しみです。

藤原氏：

ありがとうございます。では森さん、お願いします。

森氏：

今日の話のキーワードは、「**ないものを探すのではなく、あるものを探して磨く**」ということだと思います。さらにもう一步進めてもいいと思います。例えば鮫川村の大豆を使って、「日本一素晴らしい店」をつくとか、そういう人を呼んでくる。農業は最終的に「食べたい」ということにつながります。ヨーロッパの田舎では、有名なレストランに行くためだけに、その村を訪れる人がいます。鮫川村にも、大豆や牛乳、イチゴなどがあります。そうした地域のものを使って、

「あの店に行くために鮫川村へ行きたい」

と思ってもらえる場所ができれば面白い。農業や食の発信にもなるし、人が集まる場所にもなると思います。

藤原氏：

ありがとうございます。かなり時間を超過してしまいましたが、今日は本当にいろいろな意見が出て、非常に良い時間になったと思います。今日のフォーラムが、**これから鯨川村の未来を皆さんと一緒に考え、つくっていく出発点**になればと思っています。今日のお話を聞いて、皆さんの中にもいろいろな思いが募ってきたと思います。それをぜひ、これから開催する「さめがわ未来会議」に参加して、メンバーとして発言していただきたい。そして、一緒に村づくりをしていただければと思います。

ぜひ、ご関心のある方は応募していただければと思います。そして今日のお話にもありましたように、村として、

「今あるものを、どういうふうに育てていくか」

ということが非常に重要だと思います。その「あるもの」を育てていくときには、やはり**外を見ること**も一つのヒントになります。守友先生から「交流の鏡効果」というお話がありました。外から見ってもらうことによって、自分たちにとっては当たり前だったものの価値に気づくことができる。鯨川村には、すでにたくさんの「あるもの」があります。それをもっと良くしていく。それを皆さんと一緒に取り組んでいければと思います。

4 フォーラムを振り返ってーコーディネーター・トークゲストからのメッセージー

フォーラム終了後、コーディネーター及びトークゲストの皆さんから、当日の議論を振り返り、これからの鮫川村の村づくりや総合計画に向けたメッセージをいただきました。



にぎやかな過疎をめざして

守友 裕一 氏(福島大学食農学類 客員教授)

今回の鮫川村総合計画キックオフフォーラムでは、経験豊富な年配の方々、子育て中のママたち、未来をつくる若いの方々、村外から移住してこられた方、役場職員などが一緒になってこれからの鮫川村について考え行動していこうという意欲が感じられました。

今農村について語ると、人口減少、高齢化ということが多く出てきます。しかし国内外の農村を見ると、また別の動きが起きています。

一つ目は人口が減少しても幸せに充実した暮らしを続けられる仕組みづくり（縮充社会）です。二つ目は高齢者や軽い認知症の方でも支え合いながら生きていける社会づくり（共生型社会）です。三つめはにぎやかな過疎です。にぎやかな過疎とは、地域にしっかりと基礎を置いたうえで、地元の人と外部の人（関係人口）との交流を大切にして、その交流の中から生まれた力を内発的地域づくりのエネルギーに転化させ、その中で多様なプレイヤーが交錯し、むらの中が「ワイワイガヤガヤ」している楽しい様子をさしています。

地元の資源、技術、産業、文化を土台として活用し、地域産業連関を重視し、環境・生態系を保全し、住民が主体的に参加・学習して地域を創り上げていくという内発的発展論の新しい形です。

鮫川村の新しい計画づくりにはその可能性を感じています。



今を楽しみながら、未来への先行投資を

高木 千春 氏(さめがわ豆新聞社 代表)

今回トークゲストとして参加させていただき、改めて鮫川村の魅力と可能性を考えるきっかけとなりました。また、他のトークゲストの皆さんや会場の皆さんのお話を聞き、自分では気づかない視点での魅力、可能性を知ることができ、今後10年、20年後に向けて胸が踊りワクワクする時間となりました。

今後も微力ながら未来への先行投資をしつつ、今を大切に、村での生活を全力で楽しみたいと思います。大変勉強になりました。ありがとうございました。



今あるものを見つけ、磨き、未来へつなぐ

小松 孝次 氏(小松農園)

今回のフォーラムでは、登壇者や会場の皆さんから、自然や景観、人とのつながり、子育てなど、さまざまな視点で鮫川村の魅力と課題を聞くことができました。

特に「ないものを探すのではなく、今あるものを見つけて磨く」という言葉が印象に残りました。また、村のために何かしたいと考えている人が多いことにも心強さを感じました。

10年後も子どもから高齢者まで安心して楽しく暮らせるよう、村民と行政が力を合わせ、鮫川村の良さを未来へつないでいければと思います。

総合計画については、村民一人ひとりの声を丁寧に取り入れ、鮫川村の魅力を生かしながら、10年後も誰もが安心して楽しく暮らせる計画を期待します。



「むら」であることを、未来の価値に

森 禎行 氏(株式会社福土舎 代表取締役)

鮫川村には、地区ごとに小さな「むら」があり、人と人、人と自然とのつながりが今も残っています。フォーラムでは、会場からもさまざまな意見や提案が出され、改めて「村」であること自体が、これからの社会では大きな魅力と可能性になると感じました。豊かな里山や源流など、すでに「あるもの」を見つめ直す大切さも感じました。

住民一人ひとりが「自分たちの村の未来を、自分たちでつくる」きっかけになることを期待しています。鮫川村では、かつて「地元学」などを通じて地域にあるものを見つけ、大豆などを生かした「まめで達者な村づくり」につなげてきました。これからは「何があるか」に加えて、「どう次の世代につなぐか」も考え、小さくても実際に「やってみる」ことが大切です。計画をもとに、「日本を代表する村」と呼ばれるぐらい、村内外の人と実際の取り組みが進むことを楽しみにしています。



村づくりの主役は、村民のみなさん

藤原 遥 氏 福島大学 経済経営学類 准教授

今回、登壇者や参加された村民のみなさんとお話して、あらためて感じたことがあります。それは、みなさんが鮫川村のことをとても大切に思い、この暮らしをよりよくするために、自ら考え、行動されているということです。私は、その姿にとっても感銘を受けました。

私は、自治体の計画や予算、事業について、住民のみなさんが行政と一緒に考え、決めていくことが大切だと思っています。自治体は、そこに暮らす人たちが、より生きがいを持って暮らせるようにするために、住民から託された役割を担っています。だからこそ、まちづくりの主役は、そこに暮らすみなさんです。

「さめがわ未来会議」では、村民のみなさんと行政が協力し、ともに学び合いながら、未来の暮らしをよりよくするために必要なことを考え、実現していくことを目指しています。私と学生たちも、そのためのお手伝いをします。

ぜひ、みなさんの「鮫川村をこんな村にしたい」という思いを聞かせてください。



鮫川村総合計画キックオフフォーラム トークセッションの様子

5 来場者アンケート集計・分析結果

フォーラム来場者を対象に実施したアンケート 39 件について、選択式設問の単純集計、年代別クロス集計及び自由記述の内容分類を行い、次期総合計画の検討に活用するための基礎資料として整理しました。

(1) 調査・集計の概要

本報告書は、鮫川村総合計画キックオフフォーラムの来場者アンケート 39 件について、選択式設問の単純集計、年代別クロス集計及び自由記述の内容分類を行い、次期総合計画の検討に活用するための基礎資料として整理したものである。

重要な留意点 本調査はフォーラム来場者を対象としたものであり、無作為抽出による村民意識調査ではない。したがって、結果は来場者の傾向として捉え、村民全体の意向や年代間の統計的有意差を示すものとしては扱わない。

項目	内容
対象	キックオフフォーラム来場者
回答数	39 件
居住地	村内 31 人、村外（福島県内）8 人
設問構成	属性 2 問、認知・参加理由 2 問、評価 2 問、選択式 3 問、自由記述 3 問
集計方法	単純集計、年代別クロス集計、自由記述の内容分類
基礎データ	来場者記入アンケート（電子化し集計・分析）

(2) 集計上の取扱い

- 割合は、原則として各設問の有効回答者数を分母として算出した。全 39 人に対する割合も参考値として確認した。
- 複数回答設問は、各選択肢を選んだ人数を集計しているため、構成比の合計は 100%を超える。
- 「静かな環境」は「静かな生活環境」、「人口減少」は「人口減少・少子高齢化」等に表記を統一した。
- 自由記述は、一つの回答に複数の論点が含まれる場合、それぞれの分類に重複して計上した。
- 年代別比較は、標本数を確保するため「20～30 代」「40～50 代」「60 代以上」の 3 区分を中心にを行った。

(3) 回答結果の概要

観点	主な結果
回答者	村内在住者が 31 人（79.5%）、村外（県内）が 8 人（20.5%）。40 代が 13 人で最多。
フォーラム評価	「とても満足」「満足」は 22 人／37 人（59.5%）。「とても分かりやすかった」「分かりやすかった」は 22 人／36 人（61.1%）。
村の魅力	「自然環境」32 人／38 人（84.2%）、「人のつながり」21 人／38 人（55.3%）が中心。
村の課題	「人口減少・少子高齢化」23 人／37 人（62.2%）、「若者の定住・雇用」20 人／37 人（54.1%）が上位。
重点分野	「雇用創出・起業支援」14 人／38 人（36.8%）が最多。子育て、学校教育、農林業、移住・定住が各 10 人。
自由記述	10 年後の村は「若者・子育て・定住・人口」10 件、守るものは「自然・景観・水源・土地」19 件、期待・提案は「子育て・遊び場・教育」6 件が最多。

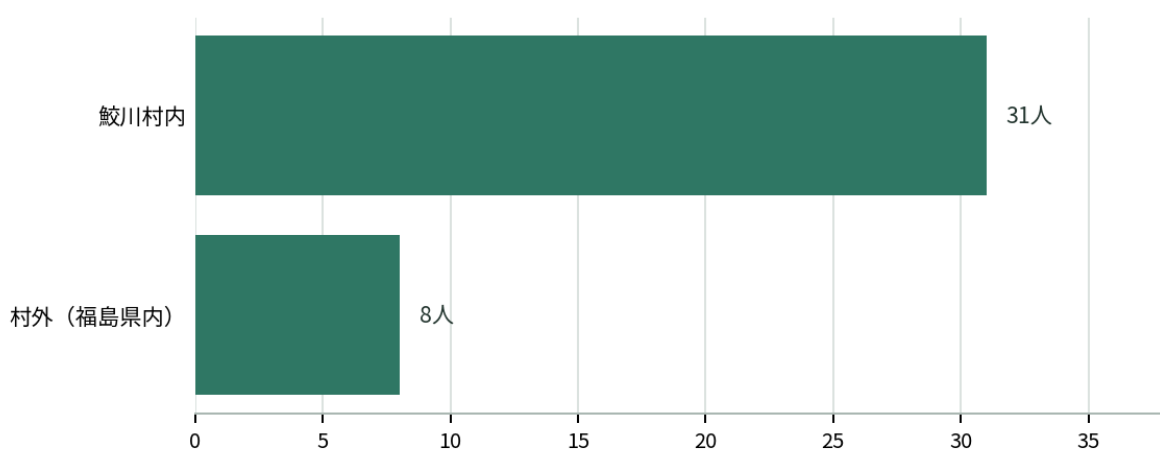
（４）設問別集計結果

以下では、各設問の回答人数と有効回答比を示す。複数回答設問については、各選択肢の割合の合計が 100%を超える。

Q1 お住まい

選択肢・分類	人数	有効回答比
鮫川村内	31	79.5%
村外（福島県内）	8	20.5%

図 1 お住まい

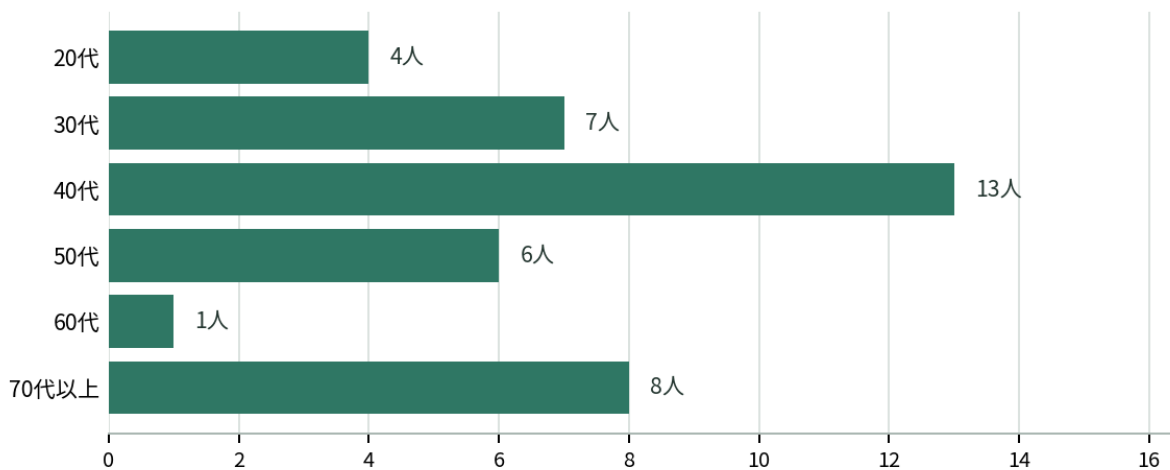


分析：回答者の約 8 割が村内在住者である一方、村外からの参加者も 2 割を占めた。村に暮らす人に加え、村外から関わる人の視点も含まれている。

Q2 年代

選択肢・分類	人数	有効回答比
20 代	4	10.3%
30 代	7	17.9%
40 代	13	33.3%
50 代	6	15.4%
60 代	1	2.6%
70 代以上	8	20.5%

図 2 年代

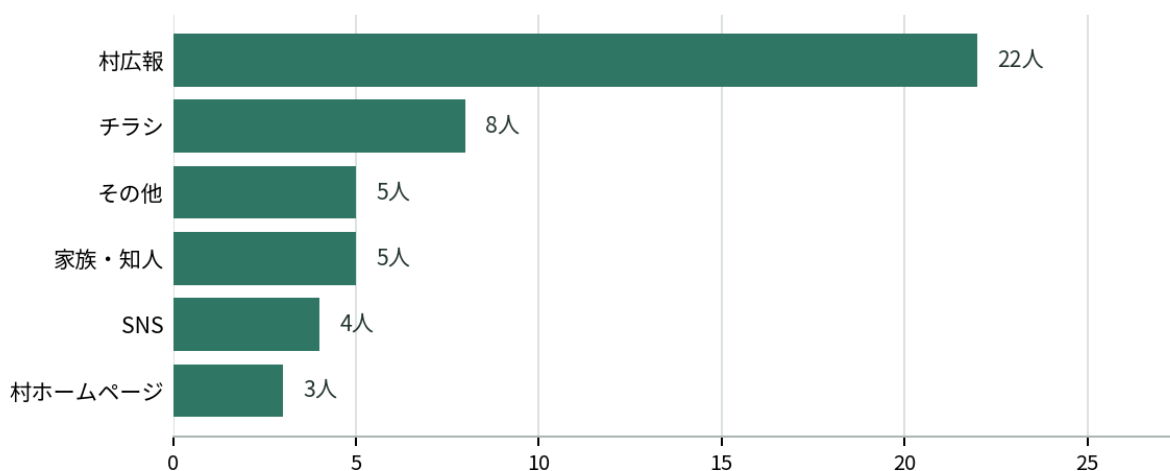


分析：40代が13人で最も多く、次いで70代以上が8人、30代が7人であった。60代は1人のため、同年代単独の割合は慎重に見る必要がある。

Q3 このフォーラムを何で知りましたか(複数回答可)

選択肢・分類	人数	有効回答比
村広報	22	57.9%
チラシ	8	21.1%
その他	5	13.2%
家族・知人	5	13.2%
SNS	4	10.5%
村ホームページ	3	7.9%

図3 このフォーラムを何で知りましたか（複数回答可）

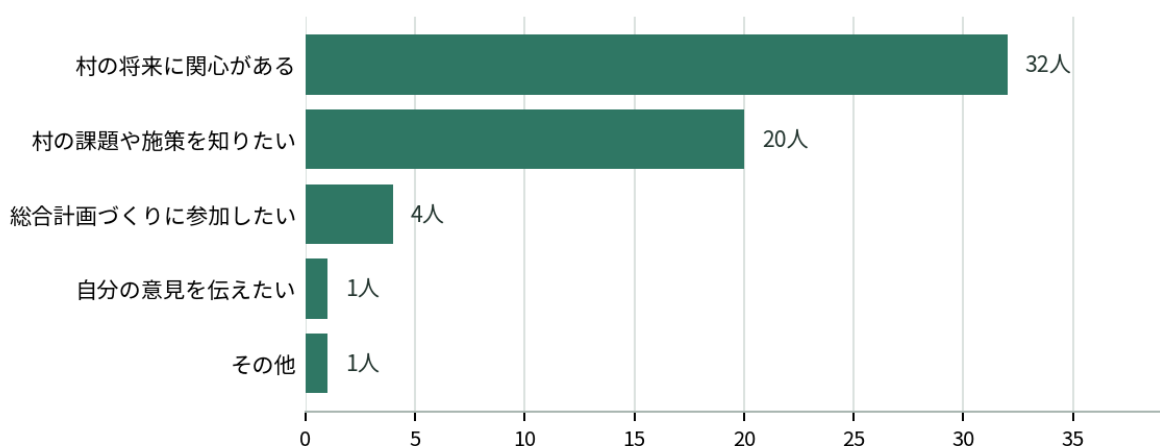


分析：「村広報」が22人で突出しており、主要な周知経路であった。チラシ8人、家族・知人5人、SNS4人が続き、デジタル経路は補完的な位置づけである。

Q4 参加した理由(複数回答可)

選択肢・分類	人数	有効回答比
村の将来に関心がある	32	82.1%
村の課題や施策を知りたい	20	51.3%
総合計画づくりに参加したい	4	10.3%
自分の意見を伝えたい	1	2.6%
その他	1	2.6%

図 4 参加した理由（複数回答可）

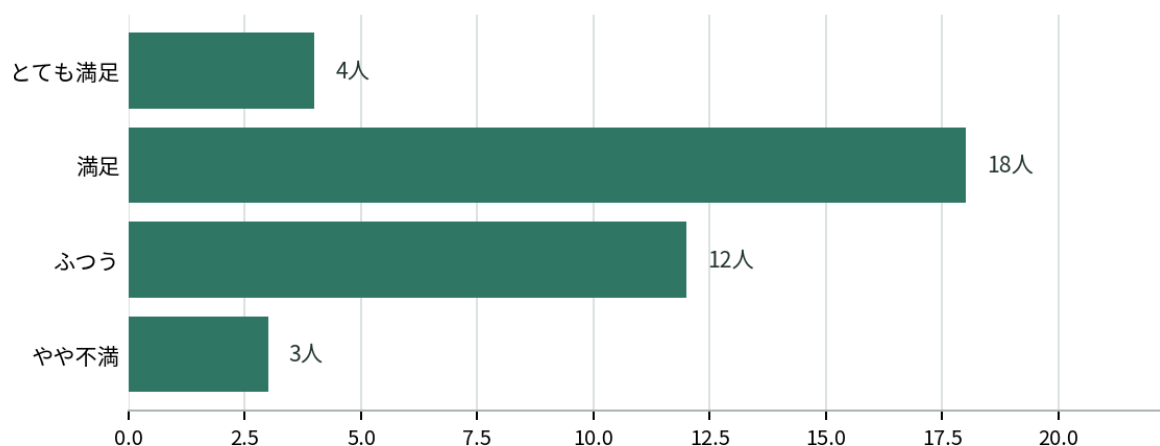


分析：「村の将来に関心がある」が 32 人と大半を占め、「村の課題や施策を知りたい」が 20 人で続いた。将来像と課題の双方への関心が参加動機となっている。

Q5 フォーラム全体の満足度

選択肢・分類	人数	有効回答比
とても満足	4	10.8%
満足	18	48.6%
ふつう	12	32.4%
やや不満	3	8.1%

図 5 フォーラム全体の満足度

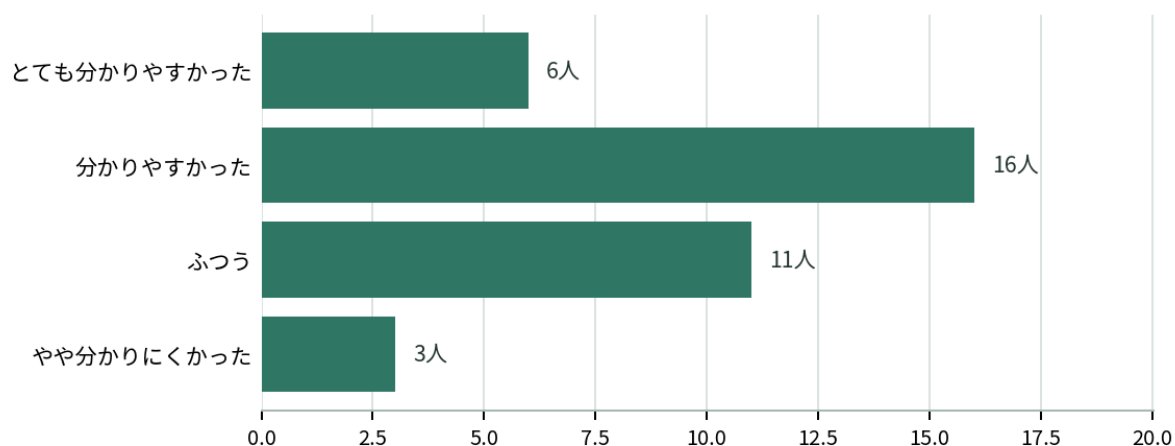


分析：肯定的評価は 22 人／37 人（59.5%）、ふつう 12 人（32.4%）、やや不満 3 人（8.1%）であった。おおむね良好だが、運営・内容の改善余地もある。

Q6 内容は分かりやすかったですか

選択肢・分類	人数	有効回答比
とても分かりやすかった	6	16.7%
分かりやすかった	16	44.4%
ふつう	11	30.6%
やや分かりにくかった	3	8.3%

図 6 内容は分かりやすかったですか

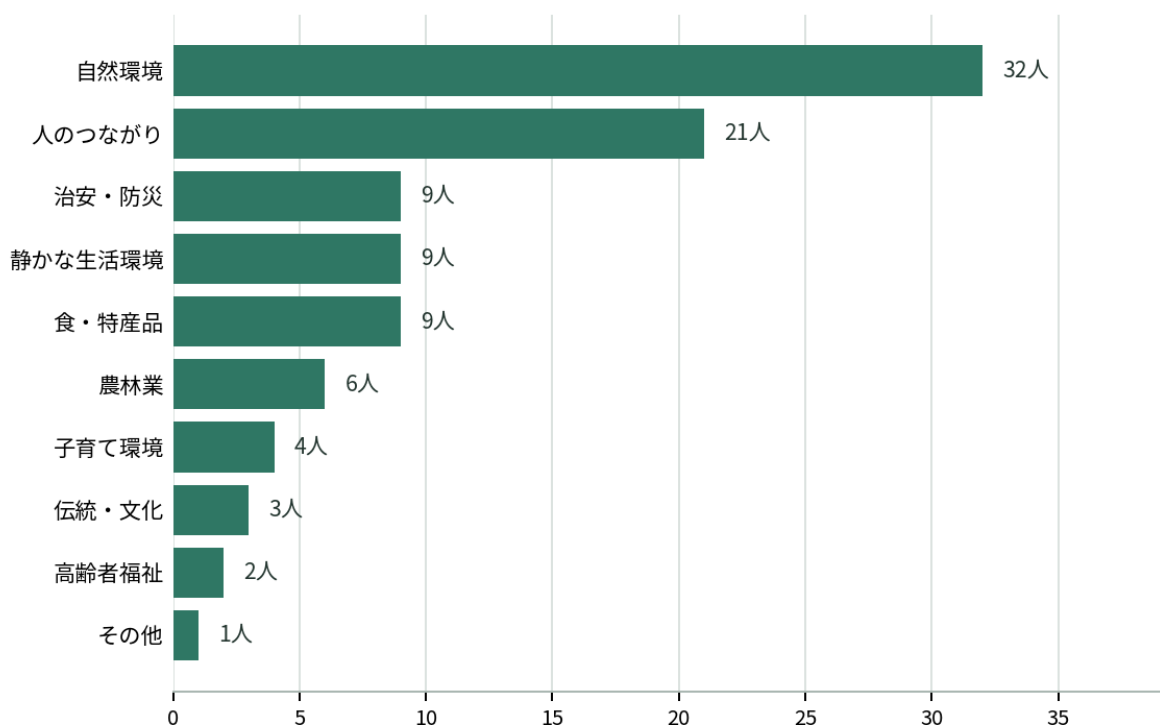


分析：肯定的評価は 22 人／36 人（61.1%）、ふつう 11 人（30.6%）、やや分かりにくかった 3 人（8.3%）であった。今後は要点整理や資料提示の工夫が望まれる。

Q7 鮫川村の良いところ・魅力だと思うこと(3 つまで)

選択肢・分類	人数	有効回答比
自然環境	32	84.2%
人のつながり	21	55.3%
治安・防災	9	23.7%
静かな生活環境	9	23.7%
食・特産品	9	23.7%
農林業	6	15.8%
子育て環境	4	10.5%
伝統・文化	3	7.9%
高齢者福祉	2	5.3%
その他	1	2.6%

図 7 鮫川村の良いところ・魅力だと思うこと（3 つまで）

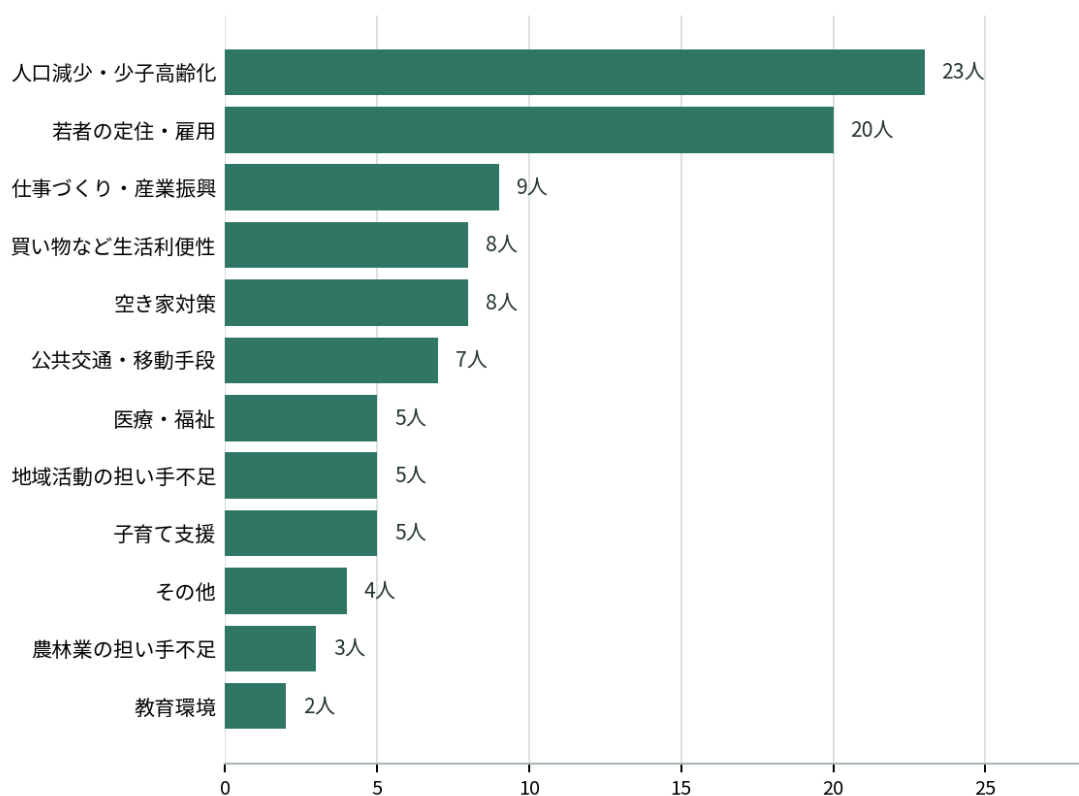


分析：「自然環境」が 32 人、「人のつながり」が 21 人で上位となった。自然と地域の関係性が、来場者が認識する鮫川村の中核的な魅力である。

Q8 鮫川村の課題だと思うこと(3 つまで)

選択肢・分類	人数	有効回答比
人口減少・少子高齢化	23	62.2%
若者の定住・雇用	20	54.1%
仕事づくり・産業振興	9	24.3%
買い物など生活利便性	8	21.6%
空き家対策	8	21.6%
公共交通・移動手段	7	18.9%
医療・福祉	5	13.5%
地域活動の担い手不足	5	13.5%
子育て支援	5	13.5%
その他	4	10.8%
農林業の担い手不足	3	8.1%
教育環境	2	5.4%

図 8 鮫川村の課題だと思うこと（3 つまで）

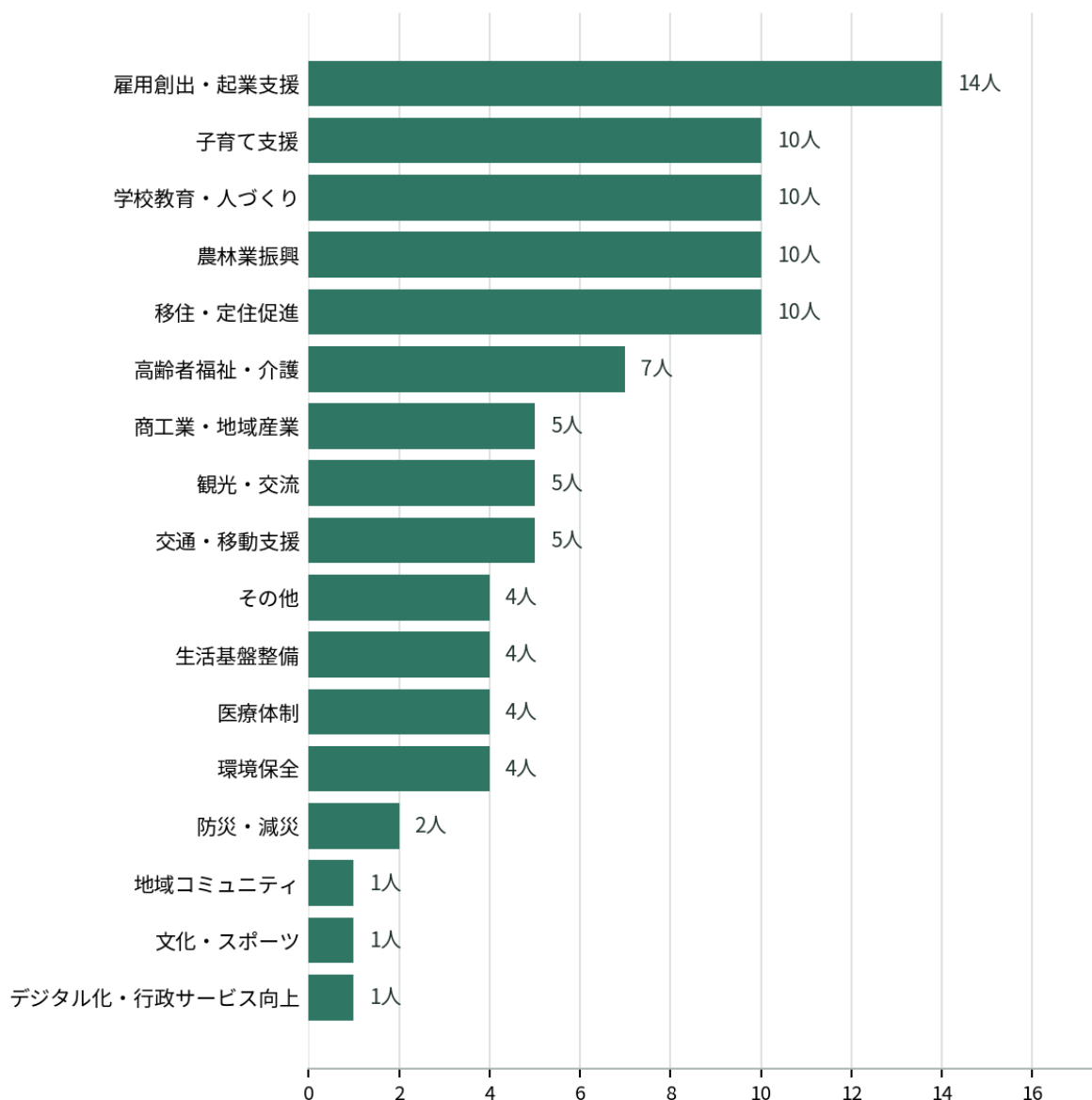


分析：「人口減少・少子高齢化」23 人、「若者の定住・雇用」20 人が上位であり、人口減少と若者の暮らし・仕事を一体の課題として捉える必要がある。

Q9 今後、村が特に力を入れるべき分野(3 つまで)

選択肢・分類	人数	有効回答比
雇用創出・起業支援	14	36.8%
子育て支援	10	26.3%
学校教育・人づくり	10	26.3%
農林業振興	10	26.3%
移住・定住促進	10	26.3%
高齢者福祉・介護	7	18.4%
商工業・地域産業	5	13.2%
観光・交流	5	13.2%
交通・移動支援	5	13.2%
その他	4	10.5%
生活基盤整備	4	10.5%
医療体制	4	10.5%
環境保全	4	10.5%
防災・減災	2	5.3%
地域コミュニティ	1	2.6%
文化・スポーツ	1	2.6%
デジタル化・行政サービス向上	1	2.6%

図 9 今後、村が特に力を入れるべき分野（3 つまで）



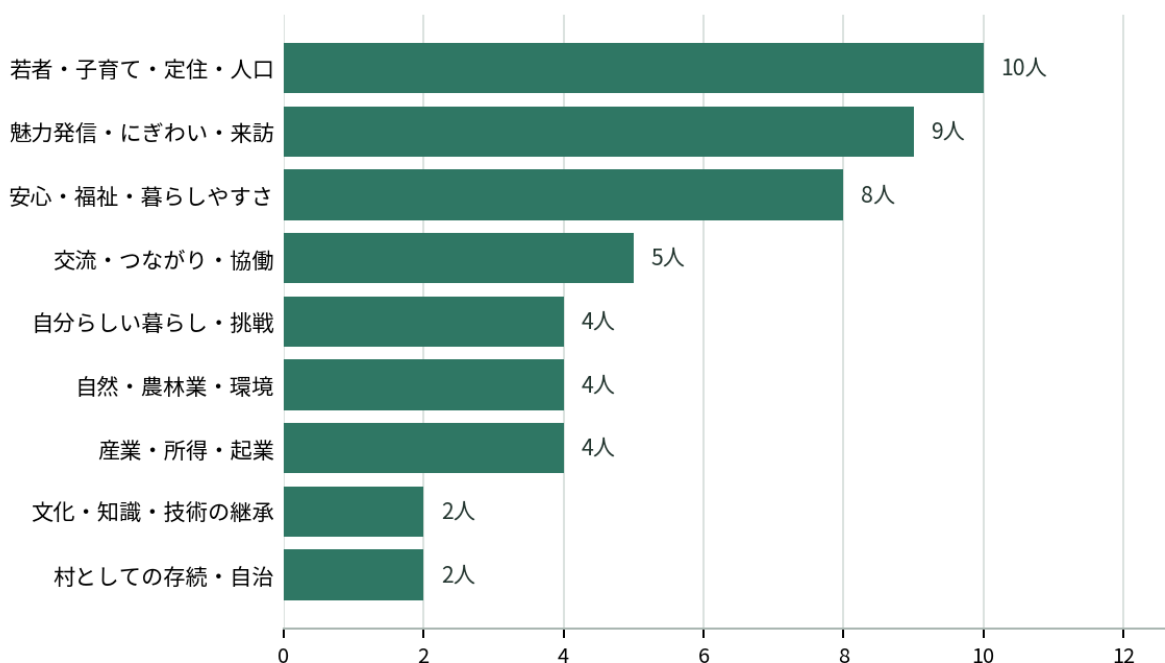
分析：「雇用創出・起業支援」が 14 人で最多であり、子育て、教育、農林業、移住・定住が各 10 人で続いた。特定分野だけでなく、暮らしと産業を横断した取組が求められている。

Q10 10 年後、鮫川村がどのような村になってほしいですか

選択肢・分類	人数	有効回答比
若者・子育て・定住・人口	10	33.3%
魅力発信・にぎわい・来訪	9	30.0%
安心・福祉・暮らしやすさ	8	26.7%
交流・つながり・協働	5	16.7%

選択肢・分類	人数	有効回答比
自分らしい暮らし・挑戦	4	13.3%
自然・農林業・環境	4	13.3%
産業・所得・起業	4	13.3%
文化・知識・技術の継承	2	6.7%
村としての存続・自治	2	6.7%

図 10 10年後、鮫川村がどのような村になってほしいですか



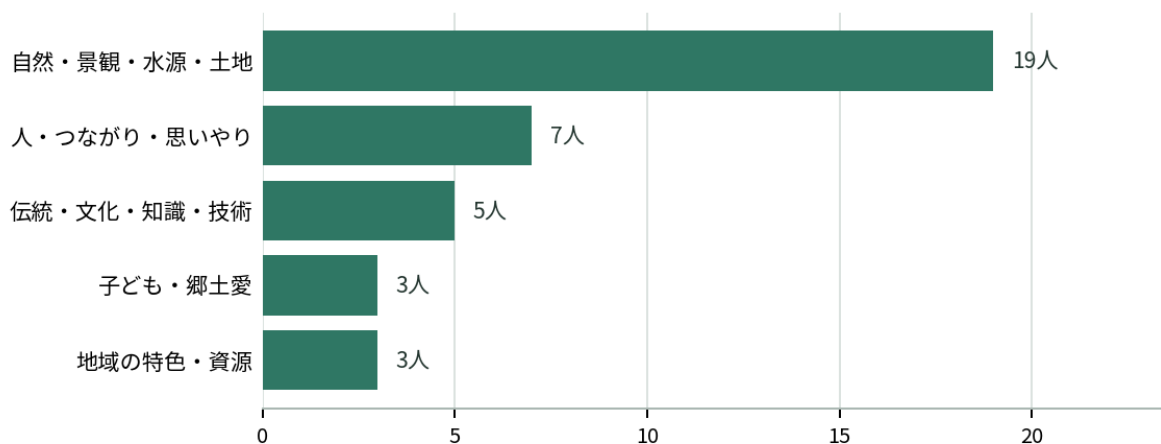
分析：10年後の姿では、若者・子育て・定住・人口に関する記述が最も多く、にぎわい、交流、安心して暮らせること、自然・農林業の維持などが重なっている。

注：自由記述は内容に応じて複数分類しているため、分類件数の合計は記述者数を超える。

Q11 村に残してほしいもの・守ってほしいもの

選択肢・分類	人数	有効回答比
自然・景観・水源・土地	19	70.4%
人・つながり・思いやり	7	25.9%
伝統・文化・知識・技術	5	18.5%
子ども・郷土愛	3	11.1%
地域の特色・資源	3	11.1%

図 11 村に残してほしいもの・守ってほしいもの



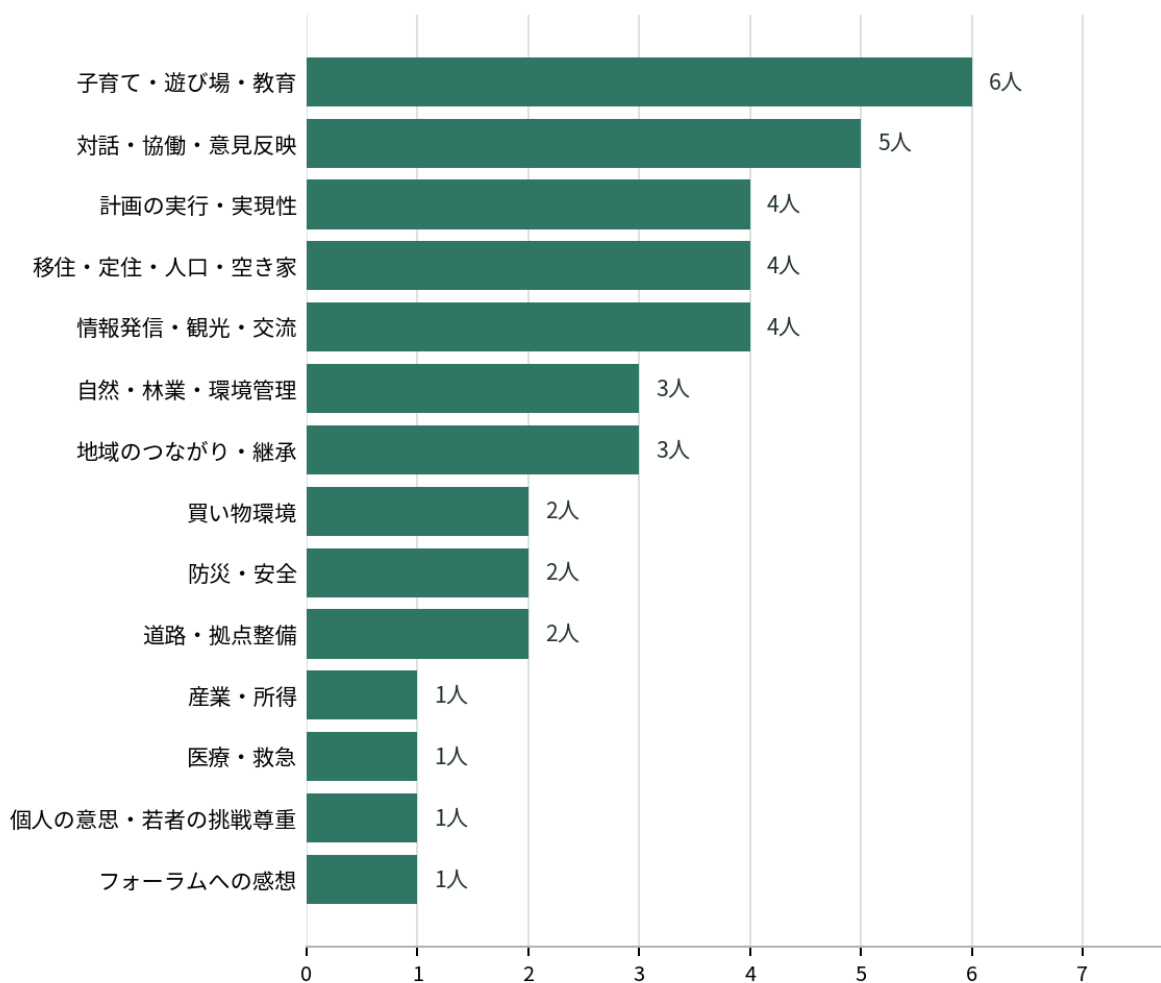
分析：自然・景観・水源・土地が 19 件で突出した。人のつながり、伝統・文化、子どもや郷土愛も挙げられ、自然資源と地域文化を一体として継承する視点が重要である。

注：自由記述は内容に応じて複数分類しているため、分類件数の合計は記述者数を超える。

Q12 村に期待すること、ご提案・ご意見

選択肢・分類	人数	有効回答比
子育て・遊び場・教育	6	20.7%
対話・協働・意見反映	5	17.2%
計画の実行・実現性	4	13.8%
移住・定住・人口・空き家	4	13.8%
情報発信・観光・交流	4	13.8%
自然・林業・環境管理	3	10.3%
地域のつながり・継承	3	10.3%
買い物環境	2	6.9%
防災・安全	2	6.9%
道路・拠点整備	2	6.9%
産業・所得	1	3.4%
医療・救急	1	3.4%
個人の意思・若者の挑戦尊重	1	3.4%
フォーラムへの感想	1	3.4%

図 12 村に期待すること、ご提案・ご意見



分析：子育て・遊び場・教育が 6 件で最多となり、対話・協働・意見反映 5 件、計画の実行・実現性 4 件、移住・空き家 4 件、情報発信・観光・交流 4 件が続いた。

注：自由記述は内容に応じて複数分類しているため、分類件数の合計は記述者数を超える。

(5) 年代別クロス集計

年代別の特徴を把握するため、Q7～Q9 について「20～30 代」「40～50 代」「60 代以上」の 3 区分で比較した。各年代群の有効回答者数が 5 人以上で、最も高い群と最も低い群の差が 25 ポイント以上となった項目を抽出した。

解釈上の注意 以下の差は記述的な傾向であり、統計的有意差を示すものではない。特に 60 代以上は 9 人であり、1 人の回答が割合に大きく影響する。

項目	高い年代群	人数/n	割合	低い年代群	人数/n	割合	差(pt)
Q9 農林業振興	60 代以上	4/8	50.0%	20～30 代	1/11	9.1%	40.9
Q9 生活基盤整備	60 代以上	3/8	37.5%	20～30 代	0/11	0.0%	37.5
Q9 環境保全	60 代以上	3/8	37.5%	20～30 代	0/11	0.0%	37.5
Q8 子育て支援	20～30 代	4/11	36.4%	60 代以上	0/7	0.0%	36.4
Q9 子育て支援	20～30 代	5/11	45.5%	40～50 代	3/19	15.8%	29.7
Q7 静かな生活環境	40～50 代	7/19	36.8%	20～30 代	1/11	9.1%	27.8
Q9 商工業・地域産業	20～30 代	3/11	27.3%	60 代以上	0/8	0.0%	27.3
Q8 仕事づくり・産業振興	60 代以上	3/7	42.9%	40～50 代	3/19	15.8%	27.1
Q8 買い物など生活利便性	60 代以上	3/7	42.9%	40～50 代	3/19	15.8%	27.1
Q7 人のつながり	20～30 代	7/11	63.6%	60 代以上	3/8	37.5%	26.1

分析：年代別に見られた主な傾向

- 20～30代は、Q8「子育て支援」36.4%、Q9「子育て支援」45.5%と、他の年代群に比べて子育てへの関心が高い。
- 20～30代は、Q9「商工業・地域産業」27.3%も60代以上より高く、若い世代の暮らしと地域産業を関連づける視点がうかがえる。
- 60代以上は、Q9「農林業振興」50.0%、「生活基盤整備」「環境保全」が各37.5%で、地域の基盤維持に関する関心が相対的に高い。
- 40～50代は、Q7「静かな生活環境」36.8%が20～30代より高い。

(6) 自由記述

自由記述は、回答者の趣旨を損なわない範囲で内容別に分類した。ここでは、代表的な意見を要約して掲載する。原回答には複数の論点を含むものがあるため、複数の分類に計上している。

Q10 10年後、鮫川村がどのような村になってほしいですか

分類	件数	主な意見（趣旨）
若者・子育て・定住・人口	10	「村に残る子どもたちが多くなって欲しい」「若い人が住みやすい村、子供が増えていく村づくり」「子育てのしやすい村」「今住んでいる方が住み続けられる村であり、転出してしまっても帰りたいと思える村」「子供達が住みたいと思う村」「人口3000人」
魅力発信・にぎわい・来訪	9	「移住につながらなくても、人が集まる村」「鮫川ブランドの特産品で有名になっている」「村外からたくさんの方が訪れる村」「鮫川村の魅力は『コレだ!!』と胸をはって言える」「『あの村、すごいよね！おもしろいよね！』って言ってもらえるような村」「にぎわいのある村」
安心・福祉・暮らしやすさ	8	「一人ひとりが自分のペースで生活できるような村」「福祉介護の充実」「安心して老後が暮らせる社会」「どの世代も安心して充実した生活が送れる村」「小さくても穏やかに安心して生活できる村」「安心して暮らせる村」

分類	件数	主な意見（趣旨）
交流・つながり・協働	5	「人と人とのつながりがより深い村」「人と人の交流が続く村」「自主自律の村づくりを村民が一丸となって取り組んでいる村」「関係人口を増やしてみえる化し、多くの村民が共有」
自分らしい暮らし・挑戦	4	「選べる未来がきちんとあること」「チャレンジが出来る村」「若い人も高齢者も農業、起業など」に挑戦できる村、「住民がそれぞれのライフスタイルを大事にした自由な生き方ができる村」
自然・農林業・環境	4	「今ある自然環境を残すとともに新たなものをつくり、未来に残していただくような村」「耕作放棄地が減少し、農業従事者が増えている」「農業、環境を維持し、小さくても穏やかに安心して生活できる村」
産業・所得・起業	4	「若者で活気あふれる村、鮫川ブランドの特産品で有名になっている」「若い人も高齢者も農業、起業など」にチャレンジできる村、「耕作放棄地が減少し、農業従事者が増えている」「村全体で収入を上げている村」
文化・知識・技術の継承	2	「地域に残る伝統文化の次世代（今後、未来につなげるように）」「先輩世代からの知的財産の伝承と継承を図ってほしい」
村としての存続・自治	2	「自主自律の村づくりを村民が一丸となって取り組んでいる村」「まずは村のままで。子供達が住みたいと思う村」

Q11 村に残してほしいもの・守ってほしいもの

分類	件数	主な意見（趣旨）
自然・景観・水源・土地	19	「強滝、江竜田の滝、鹿角平などの景勝地」「源流保全」「自然、鮫川村の水（源流）である事の自覚」「豊かな自然をのこす」「豊かで美しい自然」「豊かな里山の自然」「今残っている土地」「整然とした荒廃していない里山景観、鹿角平の景観（星空含む）」「手入れの行き届いた農村風景」「キレイな星空」等

分類	件数	主な意見（趣旨）
人・つながり・思いやり	7	「豊かな里山の自然、人情」「村民同士、他者を尊重しつつ協力を惜しまない文化」「自然環境と人のつながり、人へのやさしさ」「村としてのイメージ、景観、人とのコミュニティ」「厚い人望の村民の方々」「人」「子供、人材、人財、人と豊かな自然」
伝統・文化・知識・技術	5	「地域に残る伝統文化品や鮫川ならではの伝統のある作物」「人の知識や技術」「各地にある伝統、風習などの伝承」「各地区の伝統（祭り等）」「自然、伝統」
子ども・郷土愛	3	「自然、子ども達の地元愛」「子ども」「子供、人材、人財、人と豊かな自然」
地域の特色・資源	3	「村としてのイメージ、景観、人とのコミュニティ」「鹿角平の景観（星空含む）」「ポケふた」

Q12 村に期待すること、ご提案・ご意見

分類	件数	主な意見（趣旨）
子育て・遊び場・教育	6	「子育て世代の負担を色々な方面からさらに軽減して欲しい」「子どもの遊び場」「鹿角平にアスレチック場を！」「子供達（中学生まで）にももっと自然体験を」「小中一貫の義務教育学校を実現するならば、外から注目される学校づくりを望みます」「新しい義務教育学校の建設とソフト面が、その一端を担う役割も生まれる」
対話・協働・意見反映	5	「村民と行政が同じ目線で、一緒に高められる村づくりをしていけたら」「村民の話をよく聞きながらよりよい環境にしてほしい」「村民の声をよく聞き、村の考えをしっかりと村民に伝える村づくりを！」「これからも対話を大事にしてもらえるとありがたい」「村民の意見をよく聞き、施策に反映してくれることは小さな村ならではのメリット」
計画の実行・実現性	4	「具体的な目標の設定と、その実行をお願いします」「今日の意見や考えを大事に実現できるよう手助けしてほしい」「実現可能な計画を望む」「今回でた意見を検討し、実行して欲しい」

分類	件数	主な意見（趣旨）
移住・定住・人口・空き家	4	「せっかく来たからにはずっと住みたい」「少しでも残ってくれる子どもたちが増えたり、人口が多くなったりする未来が見たい」「空き家対策をして住む場所をつくっていかないと。せっかく人が来ても住む場所がない」「移住したいと思われる村！」
情報発信・観光・交流	4	「鹿角平にアスレチック場を！村外からもお客さんが来る」「校長みずから SNS での積極的な配信をお願いします」「今回の会議をアーカイブ配信して参加できなかった人へ伝える」「ラフティングやキャニオニング」など自然を生かした体験の提案
自然・林業・環境管理	3	「再造林は農業生産にも重要なので、対策をお願いしたい、雑木林に再生というものもいいかと思う。害獣対策になるのでは？」「環境の整備・維持の仕組みづくり！」「農業だけでなく林業（樹木）への力を入れてほしい」
地域のつながり・継承	3	「これからも人と人が気軽に声掛け、助け合う、気にし合う村であってほしい」「世代間交流を通して、知識や技術を守っていけるよう、行政のサポートがあると嬉しい」「小さなコミュニティづくりの再生！」
買い物環境	2	「買い物できる場所を増やしてほしいです。（コンビニやドラッグストア、スーパーのいずれかがあれば便利になると思います）」「コンビニがほしいです」
防災・安全	2	「防災について不安があります。もう少し力を入れて安心できる生活ができる村にしてほしい」「防災に強い村のアピール！」
道路・拠点整備	2	「拠点整備（中央集中）すること」「道路の整備」

6 トークセッション及び来場者アンケートからみる村づくりの方向性

トークセッションで示された視点と、来場者アンケートの結果を重ね合わせると、今後の総合計画を検討する上で、次のような方向性が浮かび上がります。ここでの整理は計画内容を確定するものではなく、今後の住民アンケート、団体ヒアリング、さめがわ未来会議、策定委員会等で議論を深めるための視点です。

1 自然・景観・源流を「守る資源」から「地域の価値」へ

来場者アンケートでは、村の魅力として「自然環境」が 32 人／38 人（84.2%）で最も多く、残してほしいもの・守ってほしいものでも「自然・景観・水源・土地」が 19 件（70.4%）と突出しました。トークセッションでも、景観、源流、農村風景を守るだけでなく、交流、観光、教育、農林業などと結び付けて価値を高める視点が示されました。

計画への視点

保全と活用を一体で考え、里山・農地・森林・源流・星空などを次世代へつなぐとともに、鮫川村ならではの体験や交流、情報発信につなげる。

2 「人」と「つながり」を村づくりを動かす力にする

村の魅力では「人のつながり」が 21 人／38 人（55.3%）で 2 番目に多く、自由記述でも、人・つながり・思いやりを守りたいという声が寄せられました。トークセッションでは、村のために活動したい住民、ボランティア、地域活動、外から来た人を受け入れる雰囲気などが、鮫川村の大きな力として繰り返し語られました。

計画への視点

行政だけで進めるのではなく、住民、地域団体、事業者、大学、関係人口などが役割を持ち、対話しながら一緒に実践できる仕組みを育てる。

3 子ども・若者が暮らし、学び、働き、挑戦できる村へ

村の課題では「人口減少・少子高齢化」が 23 人／37 人（62.2%）、「若者の定住・雇用」が 20 人／37 人（54.1%）で上位でした。今後力を入れる分野でも、子育て支援、学校教育・人づくり、移住・定住促進がそれぞれ 10 人／38 人（26.3%）となり、若い世代の暮らしを支える取組への関心が表れています。

計画への視点

教育、子育て、遊び場、仕事、住まい、移動などを個別に捉えず、「鮫川村で暮らし続けたい・戻りたい・挑戦したい」と思える環境づくりとして横断的に進める。

4 農・食・地域資源を「稼ぐ力」と次世代の仕事につなげる

今後力を入れる分野では「雇用創出・起業支援」が 14 人／38 人（36.8%）で最多で、農林業振興も 10 人／38 人（26.3%）でした。トークセッションでは、有機農業、農産物のブランド化、新規就農、耕作放棄地の活用、地域産品を使った食の発信など、農と食を所得や雇用につなげる具体的な提案が示されました。

計画への視点

「つくる」だけでなく、加工・販売・ブランド・体験・観光・ふるさと納税等までつなぎ、若者が職業として選べる農林業や小さな起業を増やす。

5 村内外をつなぎ、関係人口・交流の力を地域の維持につなげる

10 年後の村の姿に関する自由記述では「魅力発信・にぎわい・来訪」が 9 件（30.0%）となりました。トークセッションでも「交流の鏡効果」、源流を介した下流都市との交流、都市部の人による草刈りなど、外から関わる人の力を地域の価値発見や維持につなげる考え方が示されました。

計画への視点

移住だけをゴールとせず、何度も訪れる人、活動を手伝う人、村の産品を応援する人、学びや仕事で関わる人など、多様な関係人口との接点をつくる。

6 対話を「計画」から「実行」へつなげる

村への期待・提案では「対話・協働・意見反映」が 5 件（17.2%）、「計画の実行・実現性」が 4 件（13.8%）ありました。フォーラム自体も、村民の声を総合計画づくりにつなげる第一歩として開催されており、今後は、集めた声を整理し、計画・事業・評価につなげることが求められます。

計画への視点

住民参加の場を継続するとともに、寄せられた意見を「どう扱ったか」「何を進めるか」を見える化し、進捗を共有しながら実行と改善につなげる。



鯨川村

鯨川村総合計画キックオフフォーラム 記録誌

令和8年9月4日開催